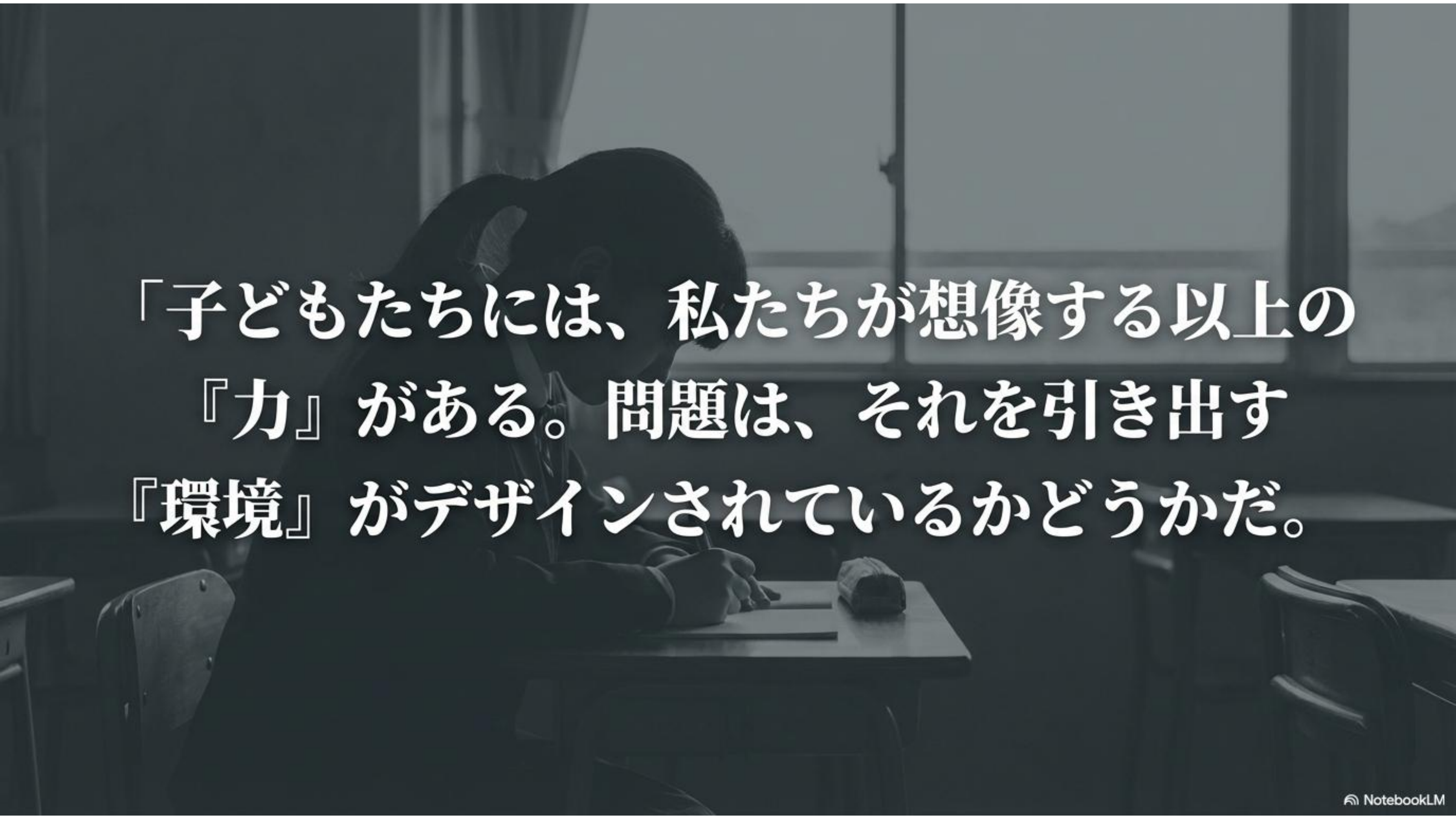


令和6・7年度 教育課題研究 発表資料

「やらせてください！」 生徒の主体性が爆発する 3年間る年間の軌跡

南ヶ丘中学校における「総合的な学習の時間」
カリキュラム改革と小中連携のエコシステム

南ヶ丘中学校 研究推進委員会

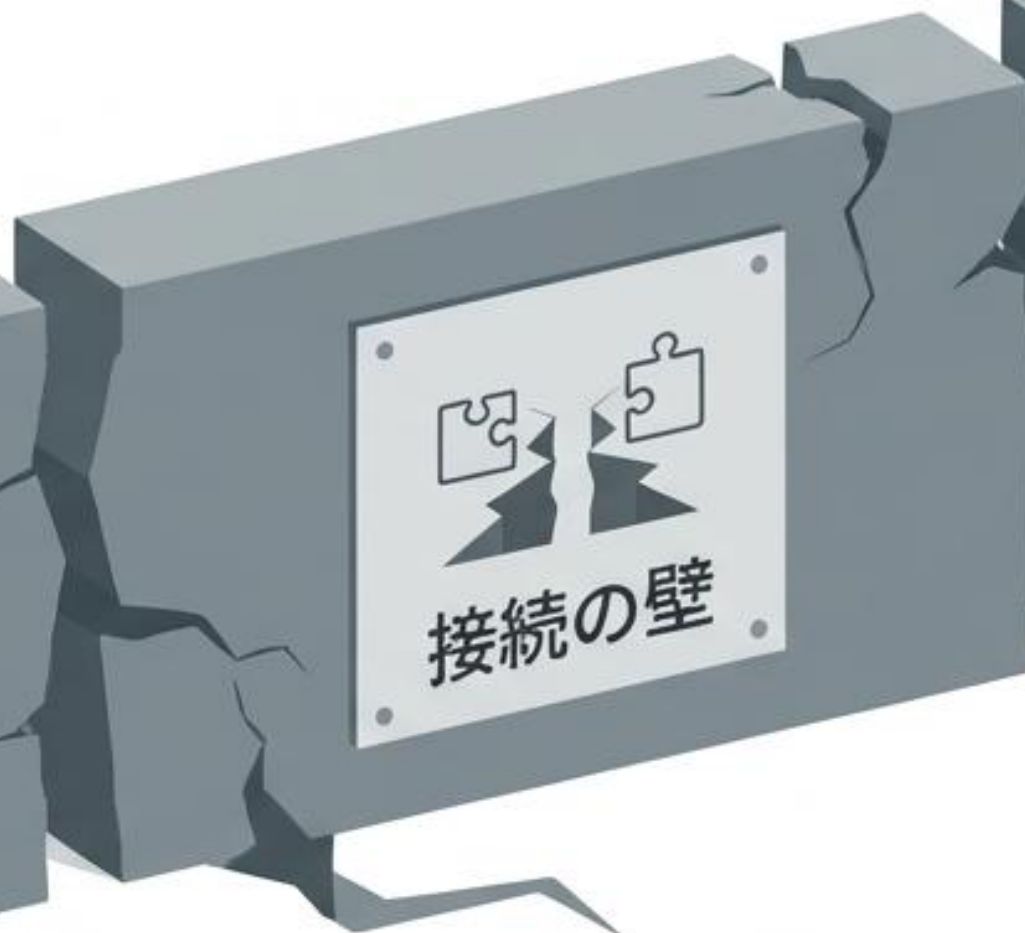
A grayscale photograph of a student sitting at a desk in a classroom, writing in a notebook. The student is seen from the side, hunched over their work. The background shows a window with a view of a landscape. The text is overlaid on the image in a large, white, sans-serif font.

「子どもたちには、私たちが想像する以上の
『力』がある。問題は、それを引き出す
『環境』がデザインされているかどうかだ。

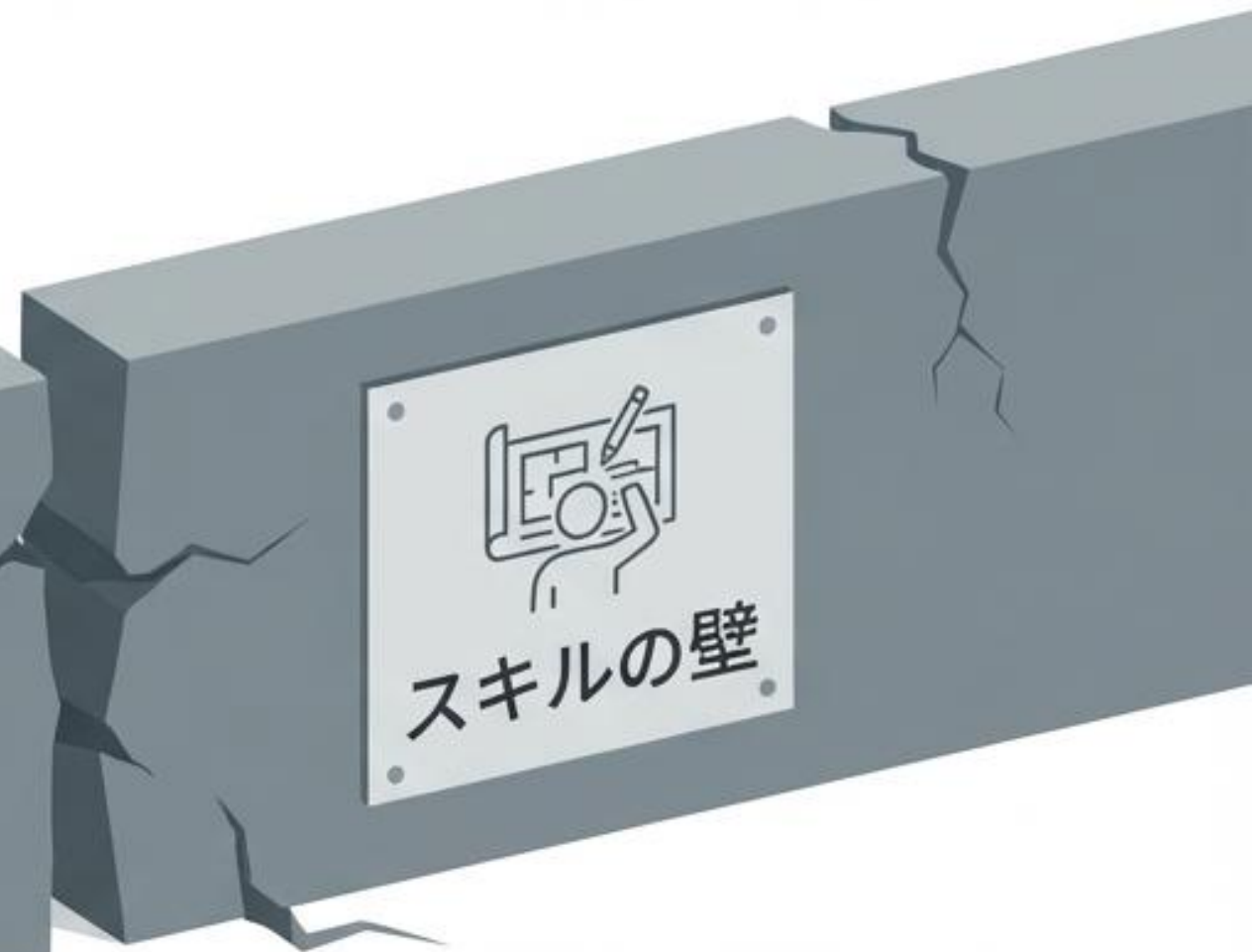
中学校における「総合」の 停滞と3つの壁



「時間がない」
「他の業務に追われている」
という現場の切実な多忙感。



小学校での豊かな「総合」の学び
がリセットされ、中学校の学習と
分断されている構造的課題。



「自分にはデザインするスキルが
ない」「教え込む教科指導とは勝
手が違う」という教員の負担感と
抵抗。

南ヶ丘中学校のスタート地点も、まさにこの「総合の時間はなるべく避けたい」という本音から始まりました。

学びをリセットさせない：小中連携の架け橋

横の繋がりから、縦の繋がりへ
学年内の連携（横）だけでなく、校種を超えた体系的な連携（縦）をデザインする。

小学校
基礎・広がり

アセットの継承

小学校で培われた探究の芽（課題発見力・協働性）を中学校の高度なプロジェクトへとダイレクトに接続する。

中学校
発展・深化

パラダイムシフト：「やらされる総合」から「共に創るエコシステム」へ

Before：従来のスタンス

After：南ヶ丘中の新モデル

教員の
スタンス

スキル不足を感じ避けようとする・
・教え込もうとする

伴走者として共に学び、
環境をデザインする

小中の
連携

完全に分断され、
中学校でゼロリセット

小学校の成果をベースに、
高度な探究へ接続

学びの
ベクトル

単発の調べ学習や行事の消化

3年間の一貫した体系的プロジェクト

情報発信

教室内に閉じる

HP等で最新の実践を社会・地域へ
オープンに発信（モデル校としての自負）

3年間のグラウンドデザイン：学びのスパイラルアップモデル

3年：水田プロジェクト

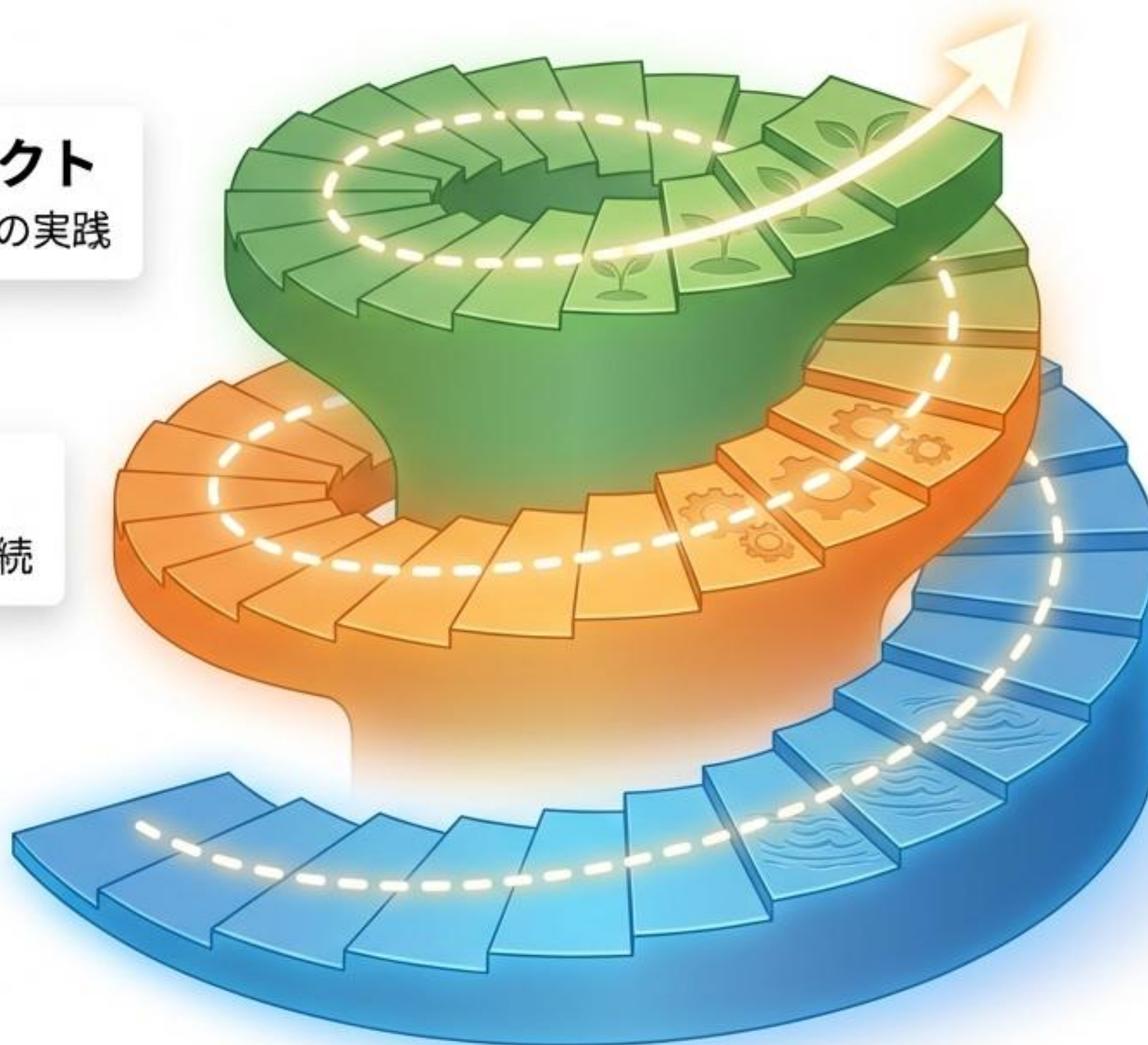
学びの統合と当事者としての実践

2年：職業体験

課題と社会・キャリアの接続

1年：海洋環境学習

地域の課題との出会い



1年次：「海洋環境学習」で地域のリアルな課題に出会う



探究の入り口

身近な海をテーマに、環境問題という正解のない問いに直面する。

現状認識

単なる知識のインプットではなく、「私たちの地域で何が起きているのか？」という当事者意識（Awareness）の芽生え。

次へのステップ

「この課題に対して、自分たちはどう関わられるのか？」という問いを残して2年次へ接続。